



SOCIETY FOR INFORMATION DISPLAY

# Newsletter

日本支部

第 64 号

発行元 : SID日本支部  
発行責任者 : 面谷 信  
発行日 : 2017年 1月 8日

支部 HP URL : <http://www.sid-japan.org/>

## Latest Trends and Expansion of Projector Technology Shinsuke Shikama, Setsunan University



In the projection industry, the technology is applied from projectors for presentation using conventional HID lamps to wide color-gamut and high reality displays using solid light sources such as LEDs and lasers. It is also expanding the application ranges to 3D, augmented reality (AR), virtual reality (VR), head-up displays (HUDs) for vehicles, solid light source headlights, etc. In the opening ceremony of the 2016 Olympics in Rio de Janeiro in Brazil, Brazilian film director Fernando Meirelles used large-scale projection mapping to link projected images and performers, and boldly expressed Brazilian nature, culture and history. His creative directing gave great impression to many people all over the world. The light sources, optics and lighting optical technology related to the projection displays, which has evolved through the realization of the large screen displays, are expected to continue to incorporate new technologies, to further impress peoples and to contribute to the realization of prosperous lifestyle. In Japan, IDW (International Display Workshops) is held annually as an international conference of comprehensive display technology. Among them, the latest technologies related to projection displays are discussed in PRJ (Projection and

Large-Area Displays and Their Components) workshop. In the latest PRJ-WS in December 2016, discussions were made on state-of-the-art technology trends, focusing on projection headlights, wearable-related technologies, laser light sources, projection devices, projection mapping, and standardization of wearable and new light sources. In addition, the members of the PRJ-WS established a projection technology research group, with the intention of promoting elemental technologies and research and development in this field beyond the boundaries of academic societies. They are aiming not only to present advanced research achievements by universities and research institutes but also to provide opportunities for information exchanges and network expansion among engineers in a wide range of fields including user companies through demonstrations of development results and information exchange meetings. The 2nd forum was held at Institute of Industrial Science in the University of Tokyo on last October. They provided topics of state-of-the-art technology of AR/VR, automotive, space projection, which create the next generation image spaces. Active discussions were made in the meeting and it became an excellent place for sharing the latest trends towards further development of the industry.

[1] IDW's Website <https://www.idw.or.jp/>

[2] PRJ's Facebook Page

<https://www.facebook.com/idwprojection/>

## IDW/AD '16 開催報告

IDW/AD '16 実行委員長 伊達 宗和(NTTメディアインテリジェンス研究所)



第23回ディスプレイ国際ワークショップ (The 23rd International Display Workshops in conjunction with Asia Display 2016; IDW/AD '16) は2016年12月7日から9日までの3日間、福岡国際会議場にて開催され、505件(暫定)の講演発表が行われました。

初日のKeynote Addressでは、中国BOE社副社長のDr. C.-C. Leeよりディスプレイ技術の将来へのトレンドについて、奈良先端科学技術大学院大学のProf. C. Sandorより真の拡張現実(AR)へ向けてのブレークスルーについて、香港科技大学のProf. C.W. Tangより有機ELディスプレイの誕生から展望についてご講演いただきました。

会議運営での新たな取り組みとして、スペシャルトピックAutomotive Displays (AUTO)を立ち上げ自動運転時代の新たなディスプレイ応用に目を向けるとともに、トピカルセッションUser Experience and Cognitive Engineering (UXC)を立ち上げ高次の認知までスコープを広げました。さらに、日韓台を巡回する国際会議である3DSA 2016をワークショップの一つとして位置付けることで既存会議との共栄を試みました。

日本からの参加者は若干減少したものの韓国および中国からの参加者数が増加し、全体としては昨年(1273名)とほぼ同じ1271名(暫定)を維持することができました。日本からの参加者の獲得には前日開催のIDWチュートリアルや、新企画のパネル討論「スポーツのための映像技術」でのSID日本支部との連携の効果も大きいと考えております。

最後に、本会を支えていただいたワークショップ委員、組織委員、実行委員、プログラム委員の皆様、協賛いただいた学会、賛助いただいた企業の皆様に厚くお礼申し上げます。

## SID 日本支部 学生支援制度を受けて IDW/AD '16 に参加して

丹羽 隼人さん(東京農工学)

IDWには今回を含めて二回参加しており、前回は展示ブースで、今回はポスター発表という形で参加させていただいた。ありがたいことに、どちらの場合でも学生支援制度を受けることができ、SID日本支部の方々には本当に助けられて参加していると感じている。学生が初めての学会発表をする際には、多くの場合、旅費や参加費だけではなく学会の年会費等もかかるため、学生もしくは研究室にとって金銭的な負担は小さくないと思う。そういった中で、旅費の一部を支援していただけるのは大変心強い限りである。また、IDWでは企業の参加が非常に多く、学会に慣れていない学生が発表するとなると、やはり本人は緊張してしまうものである。その為、学生の参加を積極的に進めてくれる学生支援制度の存在は、参加する際の心理的な障壁を低くしてくれていると感じている。IDWでは様々な企業の方々が最先端の研究開発成果を発表されているが、この学生支援制度を受けて多くの学生も負けじと研究成果を発表していき、今後もIDWを盛り上げていくことを願っている。

**羽田京右さん(静岡大学)**

この度私は、IDW' 16に参加し、ポスターセッションでの発表を行いました。私の研究は、発光材料に関するもので、今回、蓄光性蛍光体の結晶粒径および励起波長による発光特性の、合成条件との関係性における発表を行いました。

今回、私にとって、初めての国際会議でした。英語で予稿を書くのも初めてでしたし、英語での説明も初めての経験でした。当日は、世界中の研究者の方々から、様々な意見や指摘をいただき、今後の実験の方向性などを再認識でき、大変貴重な経験になりました。また、異なる分野で研究をされている方にも、私の研究を知っていただけたと感じることが出来ました。

開催中は様々な分野のディスプレイ関連技術の発表を聴き、最先端技術の研究にも触れることが出来ました。大変有意義な時間を過ごすことができたと感じています。

この度、SID日本支部学生支援制度を利用させていただきまして、SID日本支部の関係者の皆様には大変感謝しております。この経験を活かし、今後、国内外の会議に是非参加できるよう、研究に励みたいと思います。

**2017年 SID 日本支部役員体制のお知らせ**

SID日本支部規約に従い、11月29日から12月9日までの期間で役員選挙（電子投票）を行い、以下の通り役員が決定しました。

- 支部長 奥村 治彦（東芝）
- 副支部長 木村 睦（龍谷大学）
- 庶務幹事 小俣 一由（コニカミノルタ）
- 会計幹事 浅岡 康（シャープ）
- 庶務幹事補佐 石鍋 隆宏（東北大学）
- 会計幹事補佐 宮地弘一（JSR）

また、投票対象外の委員として下記の方々に特命委員として支部の運営にご協力頂きます。

- 特命委員
  - 会員増担当 志賀 智一（電気通信大学）
  - サマーセミナー校長 久武雄三（ジャパンディスプレイ）
  - Program committee chair 石鍋隆宏（東北大学）

**2017年 主な学会、研究会等日程のお知らせ**

日程	研究会名	開催地
1月26～27日	発光型／非発光型ディスプレイ合同研究会 (IEICE-EID,ITE-IDY,照明学会,IEE 共催)	徳島・徳島大学
5月21～26日	Display Week 2017(SID 2017)	Los Angeles, USA
7月	SID2017 報告会 (IEICE,ITE,照明学会共催)	東京・機械振興会館
7月	情報ディスプレイ研究会 (IEICE-EID,ITE-IDY 共催)	東京・機械振興会館
8月 or 9月	SID 日本支部サマーセミナー	東京・CIC 東京
10月	画像技術・視覚・その他一般研究会 (IEICE-EID,ITE-IDY 共催)	東京・機械振興会館
12月5日	IDW' 17 チュートリアル	仙台・仙台国際センター
12月6～8日	IDW' 17(ITE 共催)	仙台・仙台国際センター

**編集後記:**

2015年度より2年間 News Letter の編集を担当させて頂きました。ありがとうございました。

2017年度からは東北大学石鍋准教授が担当となりますが、引き続き宜しくお願い致します。

編集担当:小俣 一由(コニカミノルタ)kazuyoshi.omata@konicaminolta.com